

除雪主任13年目

「冬場の道路を守る」という
使命感をもって…

除排雪作業における縁の下の力持ち

た お きよし
田尾 聖 さん

(株式会社 フジプラ)



千歳市出身／48歳／あずさ在住／2007年から株式会社フジプラで勤務／13年にわたり除雪主任として無事故で除雪作業に従事／趣味であり生きがいでもある野球を続け、体力が必要な除排雪業務に備える

市内には、除排雪作業に携わる方が約200人います。除雪地区ブロック長とオペレーター（運転手）の調整役、除排雪作業後のパトロールなど、縁の下の力持ちとして除排雪業務に携わり、「除雪主任」を務める田尾聖さんにお話を聞きました。

「私が除排雪業務に関わるようになったのは、13年前。除雪主任として大切にしていることは《相手のことを考えること》です。

私の仕事内容は、出動調整、除雪車の運行前点検、除排雪作業後のパトロールなど裏方業務が多いですが、運転手の体調が悪いときなどは代わりに運転することもあります。埋まっている車両を助ける場面もありますが、私が運転す

るときに限って回数が多い気がします。（笑）

現場ではどのような除雪をしたら市民の皆さんに喜ばれるかはもちろんのこと、疲れている運転手にどのような言葉をかけるかなどを考えます。運転手には、夜間の降雪が気になり熟睡できない、いつ出勤要請が入るか予測できないなど、ストレスを感じる方もいますので、時には冗談を交えて話しかけています。雰囲気はいいと思います。

まだまだ雪の季節は続きます。昨シーズンの大雪を経験し、見直された除雪方法を業界が一丸となり実践しています。

厳しい意見を寄せられることもありますが、「おつかれさま」「ありがとう」といった言葉をいただいたときや、除雪を終え、子どもたちが元気よく通学している姿を見ると、夜とおしの疲れも癒やされるように感じます。

除雪の作業は、市民のくらしに不可欠な仕事です。

「冬場の道路を守る」という使命感を持ち、安全・安心な道路を確保するため、今後も除雪作業に取り組んでいきますので、皆さんのご協力をお願いします。」

第5回

先生、教えて!



市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000 内線 8138

補聴器を考えたとき



市立千歳市民病院
耳鼻咽喉科診療科長 渡邊 一正

今月号では、「補聴器を考えたとき」について紹介します。

耳は外耳、中耳、内耳の3つの部分からなっています。内耳は音を神経に伝える精巧な装置で、若い頃には日常生活では使用しないような音域にまで対応する能力があります。しかし加齢による衰えが30歳頃から始まります。加齢による難聴は「日常生活で他人との会話がしづらくなる」という不便以外に、社会的孤立、老年期うつ病、認知症にも影響を与えます。特に認知症との関係が医学界で注目されており、認知症発症を予防しうる手段のなかで、「難聴への対応」がもっとも効果が見込めるとわかっています。

衰えた内耳を治すことはできませんので、補聴器を使用することとなります。

補聴器は医師の処方箋なしで購入することができませんが、大変に精巧な機器であり、聴力にあわせてさまざまな設定と調整をする必要があります。そのためには購入前に耳鼻咽喉科を受診し聴力検査を行う事が重要です。加齢による難聴だと思つて受診した方から多量の耳垢や中耳炎など「治療可能な難聴」がみつかることは珍しくありません。加齢による難聴とわかっていても、補聴器を調整するためにはきちんと聴力を検査する必要があります。日常生活でのなにげない会話に不便を感じたときが《補聴器を考えたとき》です。そのような時はお気軽に耳鼻咽喉科を受診してみてください。